

授業実践 1 「鈴虫が鳴いた」 [家族愛 4 - (6)]

【実践日時】 平成15年10月23日（木） 第6校時

【授業実践校、対象学年、組】 中学校 2年2組 在籍32名

【授業者】 久保えり子

【準備】 資料「鈴虫が鳴いた」（「これが最新みんなのどうとく 心の物語」 出版社：学研）
ポストイットカード、カード、ワークシート、耳栓、綿

（1）本時のねらい

ガイダンス道徳からの流れ

ガイダンス道徳では、家族の絆から自分が周囲の人間に支えられて存在しているという心情が深められた。その深まりを、今まで自分が家族とどのように関わってきたのかを振り返ることで、自分の生き方を見つめ、自分はどうかあるべきなのか、支えられる側から、支える立場としての心を育てたい。

「いのち」の授業の観点から

どんなに健康に気をつけて生活していても人間は必ず「老い」を迎え、人の助けを必要とする時がくる。大家族の中では、「老い」は一生の姿の一面として温かく受け入れられ、子どもたちは「老い」と家族の関わり方を通して「生き方」を学んできたのである。しかし、核家族化が進み、年齢の若い祖父母といった環境の中で、今の子どもたちが祖父母の「老い」の姿に直面したり、面倒をみるといった経験をもつことはほとんどない。「生きる」エネルギーを支えるのは、例えどんなに小さなことであろうとも、自分という人間が必要とされているという有用感に基づく「誇り」や「自信」である。そして、その有用感はその人を取り巻く周囲の人間が根底で「支え」いるという事実を認識できれば、親から自立したいと考える時期にさしかかった生徒たちにとって、自分一人で生きていると錯覚した生き方ではなく、自立とは支えられてきたことへの感謝を支える立場としてどのように表していったらよいかを考えた生き方の追究に生きてくるはずである。「いのち」は支え合うものと理解する生徒に、具体的に自分はどのように関わっていったらよいか、考えを深めさせていきたい。

「鈴虫が鳴いた」の授業の押さえはここ！

POINT 3

- 1 「老い」の疑似体験を通して、祖母をめぐる周囲の状況の理解を深める
- 2 相手の身になった関わりが互いを生かすことに気づき、家族への自分の関わり方の課題を把握し、自分なりの解決策を探っていこうとする心情を高める。
- 3 家族の一員としての、自分の生き方を見つめさせる



自分らしい生き方の創造と、その生き方を追究する姿勢を育てる

2 授業展開

| | 学習内容 (発問) | 時間 | 指導上の留意点、予想される生徒の反応 |
|---|--|----|---|
| 導 入 (気 付 く) (実 感 す る) | 1 今日の学習の課題を知る 私たちは、周囲の人といろいろな方法でコミュニケーションを取りながら生活しています。コミュニケーションは何故必要なのでしょう。 あなたはどのように人とコミュニケーションを図っていますか。それは何故ですか。 では、家族とのコミュニケーションはどうでしょうか。家族がいてありがたいと思うのはどのようなときですか。今、自分が家族とどのようにコミュニケーションを図っているのか、ワークシートに書いてみましょう。また、今のコミュニケーションの取り方があまりうまく取れていない理由を考えて付箋紙に書き出しましょう。 【補助発問】 ・家族とコミュニケーションが取れていると思いますか。思えない人は、どうしてコミュニケーションが取れないのでしょうか。 ・家の人には自分にどのように接していますか。 ・親に自分から話しかけたりすることがありますか。 | 7 | 付箋紙、ワークシートの配布 【予想される反応】 話をする、一緒に出かける、ゲームをする、趣味の話をする、部活で応援をする 理由 ・思っているだけでは気持ちは伝わらないから ・相手をより深く知りたいから ・仲良くなりたいから ・自分をよく知ってもらうため ・病気になるとき介抱してくれる ・食事を作ってくれる ・困ったとき相談に乗ってくれる コミュニケーションが取れている理由 ・いつも話をしているから ・必要なことは伝えている ・一番自分のことを分かってくれているから コミュニケーションが取れてない理由 ・いちいち話すのが面倒だから ・必要なことしか話していないから ・友だちのこととか聞かれるのは好きでないのだから真剣に話していないから ・自分から話すことはなから ・親に答えるだけで、親の話を聞いたりする必要を感じないから ・親から聞かれるだけで、自分から話しかけなくても困らないから ・聞かれても、ぶっきらぼうに答えることが多い。それで怒られることもあるけど平気。 |
| | みんながコミュニケーション方法として一番使う「話す」について、次のような条件の中で体験してみたいと思います。 高齢になると体調にどのような変化が起こりますか。 | 7 | 【予想される反応】 耳が遠くなる、視界が狭くなる、老眼 物忘れが激しくなる、感覚が鈍る、 |

最後の『私たちのかけがえのない「家庭という場所」という言葉から、「支え合う」とはどういうことだと考えますか。自分の見解をワークシートに書きましょう。

4 自分たちの家族との関わり方を振り返り、関わり方の問題点を探り、「支え合い」に向けての解決策を班ごとに考える。

（考え・自己決定する）
 かけがえのない「家庭」の一員として支え合うとはどういうことなのか、理解できたと思います。
 今度は、自分と家族の関わり方を振り返って、家族への関わり方に関して自分たちの課題は何なのか、その課題をどのように改善できるか、班で話し合ってみましょう。

判体制を作る
 <話し合いの手順>
 導入でワークシート書いたものを使って、家族への自分の関わり方の問題点を出し合う。
 出し合ったものを検討し、問題点を二つ程度に絞って解決策を考える。

〔解決策を考えるための支援〕
 ・家族の一員としての役割分担から自分は逃げていないか
 ・部活動の応援にきてくれる親にどう対応しているか

「誇り」を無視した叱咤は、人間としての生きる気力をなくさせること
 大きな声で話をしたり、耳元に口を付けて話をする。だんだん減っていったことを考えると、必要事項のみの会話だったのではないか。

- ・【予想される反応】
- ・生活の中に楽しみが見いだせるよう互いが気を配っていくことが大切。
 - ・自分の尺度でものごとを捉えて考えるのではなく、相手の身になって対応すること
 - ・小さな幸せを大切にしてい
 - ・自己満足ではなく、相手の満足そうな顔を大切にした対応をしていくこと
 - ・共に楽しめるものを大切にしながら感じる幸福を大切にしてい

生徒からの意見を基に、簡単な図で整理していく

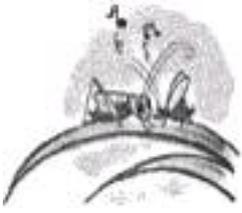
15

- 【話し合いで押さえさせる点】
- ・家族との関わり合いを自分から図る努力どのように取っているのか
 - ・自分だけ特別という意識がどこかにな
 - ・現状を一步改善するために、自分は何かできるのかを考える

- ・【予想される反応】
- ・親からの一方通行的な会話
 - ・どうしても必要なこと以外は話さない
 - ・ぶっきらぼうに受け答えをしてしまう
 - ・してくれるのは当たり前だと思って頼み事だけしている
 - ・つい、うるさいなあと言ってけんかをしてしまう

【引き出したい解決策】
 言わなくても、自分からしなくても大

| | | | |
|-----------|---|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の食事や健康を気遣ってくれることによりどのように対応しているのか ・家族がいてありがたいと感じるのは、家族がどのように自分に接してくれているからなのか ・自分の対応の仕方と家族が取ったらどのような気持ちになるか。 | | <p>丈夫と言う考えを改めて、家族への感謝等の思いは、その都度言葉や行動に表していく。</p> <p>何でもやってもらって当たり前でなく、自分のことは自分でするようにする</p> <p>家族の一員としての仕事は、言い訳をしないでやるようにする</p> <p>ぶっきらぼうな言い方を改めて、家族からの話をきちんと聞いたり話したりする</p> <p>何かしてもらったら「ありがとう」と言葉を添えて感謝の気持ちを伝える</p> |
| (交流) | 班ごとの発表 | 8 | 他の班の発表から、自分たちの気付かなかったことはないか。参考にできることはないか、気をつけて聞く。 |
| まとめ(自己決定) | 5 今日の道徳の時間を振り返り、「支え合い」について自分の考えをまとめる。 | 3 | 私たちの心のよりどころは家庭である。家族の温かい人間関係の中で、支えられていることを当然として満足しているのではなく、自分なりに支える立場として何ができるのか、何をしていかななくてはならないのかと言う気持ちを引き出させたい。 |



鈴虫が鳴いた」ワークシート

H15.10.23(木)

2年 組 番 氏名 _____

「いのち」を支えるとはどういうことだろう

- あなたはどのような家族でありたいですか? -

自分自身の家族との関わり方を振り返る

・家族とどのようにコミュニケーションを図っていますか。

声が聞き取りにくい状況の中で、どのような気持ちになりましたか。

【伝達者の時】

【受け手の時】

【体験を通して感じたこと】

資料を通して、自分は、「支え合う」とはどのようなことだと考えますか。



今日の道徳を振り返って、「支え合う」という観点から、自分の家族との関わり合い方はどうだったと思いましたか。

また、これから自分はどのように「支え合い」に関わっていきたいと考えますか。自分の考えをまとめてみましょう。

A large rectangular area with a dashed border, intended for writing answers. It contains ten horizontal dashed lines for writing.

